



▲収穫にあたってJAの指導員から野菜の見分け方について指導を受ける参加者ら（上）と、収穫に励む児童たち（左）

楽しく学んで、おいしく味わいました

佐賀県の「食と農」絆の輪活動の一環として、多久市内の児童を対象に地元の農業や農産物について理解を深める親子収穫体験を開催し、児童と保護者あわせて36人が参加しました。

参加者は南多久町の田柄地区、多久町の東の原地区の畑やハウスにてきゅうりやとうもろこし、トマトなどの収穫に親子で汗を流しました。

多久いっばいの夏野菜カレーを作ろう！

夏休み恒例の給食センター1日体験が、市内各学校の4年生41人が参加して、7月24日学校給食センターで行われました。この体験活動は、給食への理解を深めてもらうため、一般財団法人学校給食振興会が毎年開催しているもの。児童は調理員の指導のもと、具材となるかぼちゃなどの野菜を、包丁ではなくスライサーで切り、1,000人分が調理可能な大鍋で肉などといっしょに炒め、約200人分のカレーを調理しました。また、カレーのほか、焼きとうもろこしとフルーツゼリーもみんなで調理しました。

参加した児童は「家では作ったことないけど、みんなで作ると楽しい」と充実した表情で活動していました。



◀フルーツゼリーづくりに挑戦！果物を入れた容器にゼリーを流し込みます



◀「おいしくな～れっ」と心を込めて調理しました

今回は、給食センター1日体験と親子収穫体験を同日に開催し、新鮮な多久の野菜を味わってもらうこと、地産地消を考えてもらうための初の試みでした。給食センター1日体験に参加した児童が一生懸命作った料理は、親子収穫体験に参加したみなさんにも振舞われ、総勢約100人が南多久公民館で美味しくいただきました。また、会食後はスイカ割りや収穫したきゅうりを味わい、野菜に関するクイズにも挑戦しました。

日本観光振興連盟より市観光協会へプランター贈呈

（公社）日本観光振興協会の観光地美化事業の一環として、多久市観光協会へ計60万円相当のプランター6基が贈呈されました。

当事業は、花による観光地域づくりなどに積極的に取り組む地域が対象で、九州では多久市を含め3か所が選定。贈呈式では、当協会九州支部の中堀雅好事務局長が「住んでよし、訪れてよしの観光地づくりの一助になれば」とあいさつ。贈呈を受けて、多久市観光協会の野中保樹会長は「プランターを活用し、地元のご協力も頂きながら素晴らしい地域にしていきたいです」とお礼を述べました。



柴田健二さん ジャパンパラリンピック水泳競技で見事優勝

柴田健二さん（東多久町）が7月14日、15日に大阪で行われたジャパンパラリンピック水泳競技大会の400m自由形、100m背泳ぎで優勝、50m自由形で2位の成績を収められました。今回は大学生など若い選手が出場する中での入賞でした。

柴田さんは「練習メニューとして、100mのダッシュを5セット、チューブを使った左右200回の筋力アップなど工夫しています。神戸市で行われる日本選手権大会に向けて早速練習に励んでいます」と抱負を語りました。

